

「差し出そう、地域社会に奉仕の手を」が私たちのクラブテーマです。

私たちの奉仕プロジェクトをご紹介します。

工学院大学・八王子キャンパスでは16年前から地域貢献として、夏休みに小、中、高生徒を対象に「理科教室」を参加費無料で開催しています。この「理科教室」は、現在毎夏2日間の開催で6,000～7,000人の小、中、高生徒や保護者が受講する「日本で一番大きな教室」となっています。『自分は文科系の大学で教師の免許を取得。元来、理科は苦手だが小学校で担任となれば理科の授業をしなければならない。この「理科教室」で、授業のヒントを教えてもらっている。』との理由で小学校教師も受講しています。最近の調査によって、公立の小学生の「理科離れ」は深刻な状況になっている事や、理科好きの小学生の多くが卒業までに理科の授業を嫌いになっている事がはっきりしています。そして理科を不得手としている教師による自信のない授業が「理科離れ」の原因だとも解って来ました。

地域の子供たちの「理科離れ」を止めるには、「解りやすく、楽しい理科教室」を運営出来る小学校や教師をその地域が育て上げていく事が重要です。

工学院大学ではこの調査を基に数年前から、公立小学校の教師を対象とし、スーパーサイエンスティーチャー養成講座（以下SSTという）との名で「理科の教え方」教室を開校しています。今年も、休日を利用して教育熱心な教師が自発的に受講しています。

SST養成講座を受講する情熱を持った教師の存在は教育現場において徐々に知られ始めていますが、八王子市全体（70校）で見ればほんの僅かです。

私たち東京八王子RCは、SST養成講座活動を支援し、八王子市の教育長と連絡を取りながら同講座受講教師の在籍する小学校に対し、理科教材等の寄贈を行い、同時にこの熱心な教師を讃える事を八王子市への地域貢献プロジェクトとします。

このプロジェクトが順調に進めば、3年後にはロータリークラブの広報活動として【SSTによる「公開理科教室」】を市民（特にPTA）向けに開催したいと考えています。どこの小学校に熱心な教師が在籍しているか、市民（特にPTA）に知っていただく事が八王子の教育現場に対し、大きな刺激になると考えているからです。

最後に、お読みいただいたロータリアンの皆様から、ご意見を頂きましたら誠に幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

姉妹クラブ創立30周年式典に参加します

東京町田RC 会長 渋谷 直明

東京町田ロータリークラブでは、10月に行われる姉妹クラブの台湾台中中區扶輪社創立30周年記念式典に大勢の会員と令夫人で参加します。

田中角栄内閣時の中日国交回復の裏で、台湾との国交が断絶したことを考慮し、民間外交の一環としてロータリークラブ同士の交流を進めました。当時、数多くの姉妹クラブが誕生しましたが、言葉の問題や、習慣の違い、熱意の差などによって、現在まで親密な交流が続いているのは、大変数少なくなっているようです。

我が東京町田ロータリークラブと台中中區扶輪社とは、1980年6月6日に「姉妹社結盟同意書」を締結し、以来29年の長きに亘り、様々な共同事業を行って参りました。かつては、『書』や小・中学生の『作文』を交換したりしたこともありましたが、文字や言葉が違うので困難でした。

最近では、10年前より、『中日児童絵画交流展』を催しています。各々のクラブで催している幼児画展に於ける優秀作品数十点を交換、展示するもので、素晴らしい国際交流と幼児教育への積極的な関わりと、各方面から極めて高い評価を戴いています。

また、1999年の台中大震災の折、当クラブからの義援金で頭社国小に特別校舎を建設した返礼として、2004年の新潟中越地震に対しては、普段からロータリー財団に対して多額の寄付をしている台中中區扶輪社の提案で、マッチンググラントを使って、被災した新潟十日町の小・中学校にパソコン、テレビ等、多数の学用品を寄贈してきました。

このように、いままでも意義深い、親密な交流をしてきましたが、今回は台中での記念式典に先立ち、姉妹クラブである町田ロータリークラブと、台湾の中區が付いた兄弟クラブと称する5クラブ、計6クラブで、「台中中區兄弟姉妹社ゴルフコンペ」が日月潭の台中国際球場に於いて、初めて開催されます。台湾のロータリアンは、かなり腕前だと聞いています。当クラブゴルフ組の健康を祈ります。



本社與姐妹社日本東京町田扶輪社共同捐贈南投頭社國小一座鐘塔之捐贈儀式